

恵那東防災リーダー実行委員会

恵那東中学校では、近い将来起こりうる南海トラフに備え、中学生が地域社会人として、貢献できる人材育成するため、昨年度より「恵那東防災リーダー実行委員会」を発足させました。

大井防犯パトロール隊長の岩井慶次さんや、恵那市危機管理課の高垣浩さんを講師に迎え、2・3年生合わせて19名と有志の職員で、恵那東中校区の防災士育成を目的に活動を行っています。

今年度、9月1日に行われる『恵那市防災訓練』では、実際に災害が起こったことを想定し、避難所である小中学校ごとで避難所を設営する予定です。

防災リーダーである19名の生徒たちは万が一の災害に備え、「いざという時に地域住民のリーダーとして、活躍できるように…」と、年間を通して『D.P.L(Disaster Prevention Leader)』と称した防災に関わる研修を行っています。

これまで3回の研修を行い、年間計画の作成を行い、恵那市の防災計画や災害の実情について学び、『H.U.G.(Hinanzo Unei Game)』を通して、避難所の運営シミュレーションの演習を行いました。

『H.U.G』は、恵那東中学校が避難所となった際、何処を立ち入り禁止にするか、何処に何を設置し、誰をどこに避難させるか等を考え、判断するゲームです。

避難所には様々な人が訪れます…。「ケガを負った人」「認知症を患う高齢者」「車いすを利用している人」「ペットを連れてくる人」「生後数か月の赤ちゃんを連れてきた人」「妊婦さん」「外国からの観光客」…。それだけではありません。簡易トイレや毛布や食料…さまざまな物資が届けられたり、報道陣が取材に訪れたり、政治家が視察にやって来たりします。他地域からボランティアも訪れます。避難所を運営する我々は、そうした人や物をどのように受け入れていくのかを具体的に考え、判断していくのです。

子どもたちは、学校の何処に何があって、どんな状態なのか…その実情を私たち職員よりも把握しています。

先日(7/13(土))に行った研修で、その判断の速さと的確さにたいへん驚くとともに、たくましさや頼もしさを感じました。

中学生が地域に貢献できる「地域社会人」として着実に成長しています。「恵那東防災リーダー実行委員会」の活躍を多くの人に知っていただき、ご理解・ご協力をよろしくお願いします。



【恵那市の防災計画を知る】



【避難所の一日の生活を考える】



【東中が避難所になったら…】

お昼の商店街探検



今年度、学校運営協議会の実行組織の1つである地域貢献活動部会が本格的にスタートしました。大井町のまちづくり団体から中学生にまちづくりを手伝ってほしいという依頼が1年生、2年生を対象にありました。今回は、その中の1年生が参画するまちなか市を盛り上げるプロジェクトです。

13日(土)。プロジェクトの第1回の会議が行われました。恵那東中学校1年生から募集したプロジェクトに参加する人の合計は40名です。その中から、32名が参加しました。

朝10時頃に恵那駅前に集合し、商店街を見に行きました。まちなか市実行委員の長谷川さんに商店街の会長大塚さんを紹介していただきました。歩きながら、商店街の歴史やお店の紹介を聞きました。「よろずや」「くすりや」「たたみや」「かぐや」「せんとう」など、普段あまり聞くことのないお店がたくさんありました。商店街には様々な店が並んでいます。しかし、時代と共になかなか利用されなくなり、シャッターが閉まっている商店も多数ありました。その一方で、「この店、おしゃれ～」と生徒から声の上った隠れ家的な新しいカフェも見つけました。

今は、コンビニやピアゴやパローなどで一通りのものを1つの建物でそろってしまう時代です。商店街には、なかなか立ち寄らないでしょう。しかし、少し歩いてみると、昔からその場所でお店を開いて生活をしている人たちの体温を感じることができました。

今回のまちなか市で空き店舗を2つ貸していただきます。その空き店舗の中を下見しました。何ができそうか考えながら見学をしました。32名が全員余裕で入るぐらいの広さがありました。

見学したあとに、恵那文化センターに移動し、前週にとったアンケートの集計をしながら、「どのようなことがやれそうか」「どのようなことがやってみたいのか」「どんなことをしたら人が集まりそうか」を5人ずつで話し合いを行いました。それぞれの班でアンケートを集計して、出てきたアイデアをもとに、今後まちなか市でお店を出すために活動していきます。ご期待ください。

